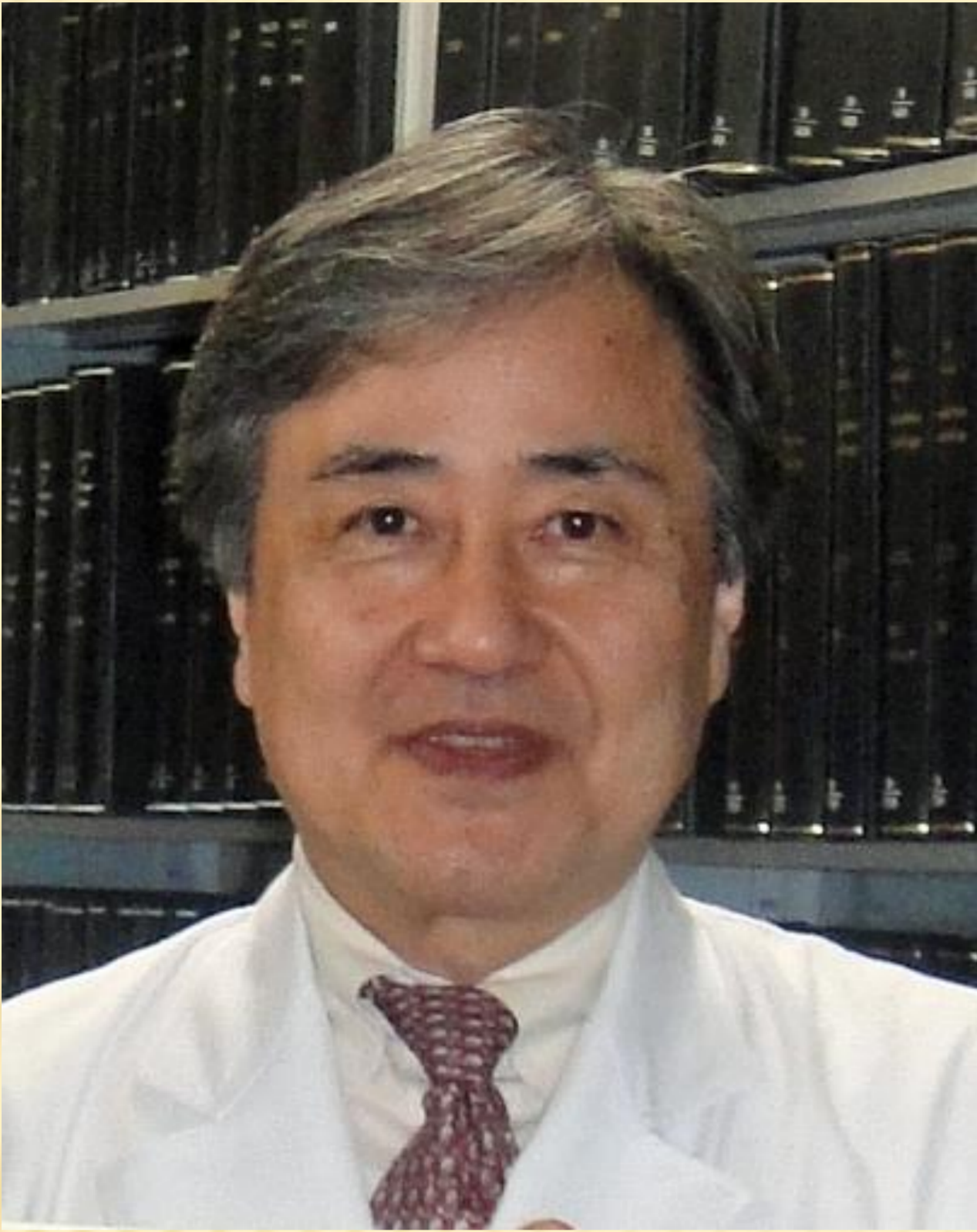


十代教授

岩月啓氏 教授

平成13年(2001)―



昭和53年北海道大学医学部を卒業、浜松医大へ入局。福島医大を経て、平成13年(2001)に岡山大学医学部皮膚科教授に就任した。ミレニアムを迎え、社会情勢と岡山大学の変革の中の船出となった。国立大学は独立行政法人化と大学院大学への道を選び、国に頼らない大学再構築が始まり、生き残りをかけた経営と外部資金獲得合戦が始まった。卒後臨床研修必修化に定着し、トップダウン方式が通用した医局制度は解体の方向へ進んだ。大学組織の統合が進められ、医歯薬学総合研究科が設置された。

その中で、臨床写真のデジタル化、スプリングセミナーや岡山研究皮膚科フォーラムの開催、日皮岡山地方会の学外開催、メディカルメイクアップ外来、皮膚科Archives（業績リポジトリと公開）、荒田賞（教室内の年間最優秀論文に対して）、皮膚難病支援ネットワーク、医薬の門：地方会症例連載（皮膚病アトラス集編纂にむけて）、中国研究皮膚科セミナー、レジデントプログラム、NPO法人専門医による皮膚病診療支援ネットワーク岡山（組織ハブ化）、病理組織Virtual slide システム導入、大専攻系研究プロジェクト・専攻系セミナーなど新しいプロジェクトや改革に次々と取り組んだ。

自身の研究歴は自己免疫性水疱症、ウイルス潜伏感染と宿主免疫応答、EBウイルス関連リンパ増殖症と皮膚リンパ腫などであり、対外的な研究活動と社会的貢献は広範囲に及んだ。岡山大学病院は皮膚リンパ腫研究の中核施設で、全国の臨床統計データのレジストリの拠点となった。さらに天疱瘡、表皮水疱症、膿疱性乾癬、魚鱗癬様紅皮症などの皮膚難病の調査研究班の代表を務め、皮膚難病に挑戦している。

2004年に水疱症研究会、2006年に皮膚脈管・膠原病研究会、2008年Satellite Workshop of IID2008: Virus-associated lymphomas（京都）、2009年に日本悪性腫瘍学会を主催され、2011年に第2回東アジア皮膚科会議（EADC）（北京）共催した。さらに2014年に日本皮膚科学会総会、2015年には日本研究皮膚科学会を開催予定である。岡山大学皮膚科学教室同門から藤本亘教授、池田光徳教授、大野貴司教授の3名の教授が誕生した。

皮膚科常勤医を置く関連病院が増え、皮膚科診療応援をしている病院も数が増えた。中四国に多数の関連病院がある。豊富な関連病院と優秀な指導医のもと、皮膚科専門医として十分な技量を養うためのResidency Programを準備している。

岡山大学病院の医系教育担当の副病院長として、医学生、研修医教育を推進。岡山大学病院輸血部長、岡山大学病院超音波センター長、岡山大学病院検査部長を兼任している。

general medicineの中で通用する高い臨床能力を有する皮膚科医の養成と、探究的皮膚科学を目指す人材育成に主眼を置いている。